



奈良文化財研究所
Nara National Research Institute for Cultural Properties

秋期特別展

平城宮跡資料館令和4年度秋期特別展
奈良文化財研究所70周年展・平城宮跡史跡指定100周年記念

地下の

正倉院展

—平城木簡年代記—
クロニクル

奈良文化財研究所
平城宮跡資料館

Treasures
From Underground

2022 10/15(土) 11/13(日)



地下の 正倉院展

— 平城木簡年代記^{クロニクル} —



長屋王家木簡の取り上げ状況(1988年)

奈良文化財研究所では、みなさまに平城宮・京跡出土木簡の実物を見ていただく機会として、2007年より毎年秋に「地下の正倉院展」を開催しており、すでに秋の風物詩として定着しています。

1961年に平城宮跡の調査で第一号の木簡が出土して以降、出土木簡の蓄積は続き、現在では30万点を保管するまでになっています。出土木簡に対しては継続的な調査・研究が日々進められており、現在、奈良文化財研究所は国内外の木簡研究をリードする存在となっています。また同時に、一般の方々の間でも木簡は平城宮・京を代表する遺物として広く認知されるようになっていきます。

平城宮跡出土の木簡はこれまで、2003年指定の大膳職推定地出土木簡にはじまり、2015年の造司司出土木簡に至るまで2,875点が重要文化財に指定されてきました。そして2018年には、新たに309点を加えた計3,184点の「平城宮跡出土木簡」が、木簡としては初めて国宝に指定されました。2020年には、有名な長屋王家木簡が重要文化財に指定されています。正史には残らない律令国家や貴族社会に関わる様々な情報が得られ、当時の社会の様子や人々の息吹をまざまざと感じられることは、木簡がもつ大きな魅力のひとつでしょう。

本年は平城宮跡が史跡に指定されてから100周年、そして奈良文化財研究所が設立されて70周年の記念の年にあたります。本展では、60年以上に渡る平城宮・京跡での木簡出土の足跡を振り返りつつ、各年代を代表する木簡をご覧いただき、奈文研の木簡研究の来し方についてもご紹介します。1300年の眠りから覚めた木簡たちの語らいに、耳を傾けていただけると幸いです。



記念すべき初の木簡記帳ノート



最も新しく出土した木簡(2021年12月出土)



令和4年10月15日(土)～11月13日(日)

会期

展示替え 前期 10/15(土)～10/30(日)、後期 11/1(火)～11/13(日)

月曜休館 開館時間 9:00～16:30(入館は16:00まで)

場所

奈良文化財研究所 平城宮跡資料館 企画展示室

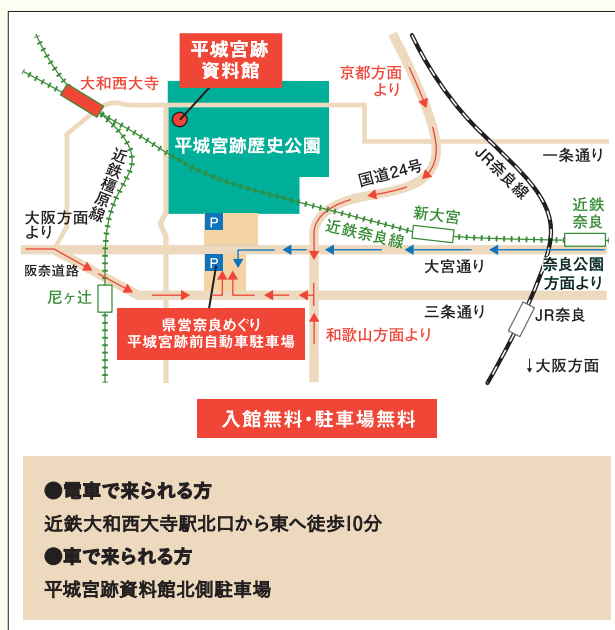
出品

平城宮・京跡出土木簡 約60点(2期通計)

連絡先

TEL 0742-30-6753 (連携推進課)

独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所



●電車で行かれる方

近鉄大和西大寺駅北口から東へ徒歩10分

●車で来られる方

平城宮跡資料館北側駐車場

主催 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所

後援 文化庁、国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、平城宮跡管理センター、平城京再生プロジェクト、読売新聞社、近畿日本鉄道株式会社、奈良交通株式会社、木簡学会



平城宮跡資料館
HPはこちら



平城宮跡資料館
公式Twitterはこちら



独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所

平城宮跡資料館

<https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/>